



子どもが地域の担い手の一員と感じ取れる場をつくる大切さを指摘する林講師＝15日、福井市の県生活学習館

地域担い手実感が大切

福井で主権者教育講習会

県立高校の教員らを対象とした主権者教育の指導者講習会が15日、福井市の県生活学習館であった。模擬選挙推進

ネットワーク代表の林大介・東洋大非常勤講師が、地域の担い手の一員だという意識を生徒が感じ取れる場をつくっ

ていく大切さを指摘した。

県教委が開き約140人が参加した。林講師は「生徒を子ども扱いしたまま卒業させていないか」と問題提起。成人年齢を18歳に引き下げる民法改正案が今国会で審議入りし、早ければ2022年に施行されるとして「子どもに大人としての自覚を早く身につけさせる必要がある」と指摘した。子どもが地域の担い手としての意識を高める取り組みとして、鯖江市のJK課などを挙げた。

子どもの主権者意識や政治的教養を学校で育むには、公民や社会の授業だけでなく、国語で新聞の論説を読み解いて要約したり、美術で選挙ポスターをデザインしたりするなど学校全体で取り組む必要性を訴えた。(小林真也)